

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
文化学部・准教授 飯高 伸五	中山間地域における生活圏の確保に向けて一土 佐郡大川村における地域創造	H29-H30	1,148,000
研究概要			
<p>本事業の目的は、高知県の中山間地域における過疎化のなかで、人々がいかに生活圏（生存に必要な生活機能を共有し、共通のアイデンティティをもとに地域の未来像を思い描けるような領域）を確保しようとしてきたのかを実地調査によって解明し、中山間地域の課題解決に向けた基礎データを収集・提供することである。研究対象は土佐郡大川村で、大川村役場および大川村ふるさとむら公社の職員と連携し、本学の複数の学部の教員が「中山間地域の人々がいかに生活圏を確保しようとしてきたのか（していくのか）」を共通の問題意識として、実証的な学際的調査・研究を行うとともに、大川村へ成果還元や情報発信を行う。</p> <p>県政では「大川村の活性化を中山間地域活性化のモデルケースとする」と位置付けている。大川村では急速な人口減少が進み、人々の生活圏の存続すら脅かされかねない状況が差し迫っている。1970年代中葉以降、村をあげて「ふるさとまつり」や合同同窓会、謝肉祭等の地域創造の試みや、大川黒牛やはちきん地鶏の畜産振興および地産外商の取り組みによる雇用創出が行われている。また「ふるさと留学制度」を通じて村外から児童・生徒を受けいれているが、人口減少は引き続き進行している。これらの取り組みを検証しつつ、今後に向けて学術データの提供やデータに基づく提言を行う。本事業の参加者は、それぞれの専門性を活かして、①文化人類学・民俗学、②公共哲学・政治哲学、③教育学、④地域福祉、⑤地産地消・栄養管理、⑥地域経済学の観点から、調査・研究を進める。</p> <p>中山間地域の問題は、広く生活一般の問題から医療、福祉、健康、教育など多岐にわたる複合的な課題であるため、これまでは個別の学問分野によるアプローチが多かった。本事業では人々の「生活圏の確保」に注目して多角的にアプローチし、ローカル・アイデンティティの維持、村民の政治参加促進、へき地教育の取り組みの充実、地域福祉の充実、地産地消の給食管理および栄養管理の充実、生活圏を維持した産業育成などの観点から中山間地域の課題解決に向けた有益なデータを収集・提供できると予想される。</p>			

研 究 成 果

地域福祉分野を除き、それ以外の領域については概ね順調に研究を遂行することができた。特に、学校給食、へき地教育、青年団活動などの領域では、学会発表や出版物発行などより具体的な成果をあげることができた。その他の領域においても、現地ワークショップを通じて、研究成果を地域に還元し、今後に向けての意見交換を行った。

成 果 物 等

【学術論文】

1. 飯高伸五（2018）「過疎地におけるむらづくりと旧住民とのネットワークー土佐郡大川村の事例」『高知県立大学文化論叢』6：89-99
2. 飯高伸五・宇都宮千穂・島田郁子・鈴木康郎・吉川孝（2022）「中山間地域における生活圏の確保に向けてー土佐郡大川村における地域創造ー」『高知県立大学文化論叢』10：7-11

【報告書・冊子】

1. 飯高伸五（2019）「大川村の謝肉祭」高知県立大学文化学部（編）『大学的高知ガイドーこだわりの歩き方』261-269、昭和堂、京都
2. 鈴木康郎（2019）「山村留学」高知県立大学文化学部（編）『大学的高知ガイドーこだわりの歩き方』270-273、昭和堂、京都

【学会発表】

1. 第14回日本給食経営管理学会学術総会、ポスター発表
島田郁子、庵原史佳、杉本美佳子、土井麻緒、野本友華、濱田紗和、森恵美、沼田聡「大川村における独自の給食体制ー子どもから大人まで」2018年11月24～25日
2. 平成30年度第2回（通算第13回）高知工科大学&高知県立大学&高知大学医工連携交流会、ポスター発表
飯高伸五、島田郁子、宇都宮千穂、鈴木康郎、吉川孝「大川村における給食体制ー中山間地域における生活圏の確保に向けた取り組み」2019年2月1日

【現地ワークショップの開催】

1. 第1回ワークショップ「地域から元気を発信！～大川村へようこそ～」
日時：平成30年3月22日
場所：高知県立大学永国寺キャンパス
内容：大川村の給食（学校・デイサービス対象）に農産物を提供している川上千代子・文人夫妻をお招きし、健康栄養学部学生と意見交換を行い、今後の連携を模索した。
参加者：11人

2. 第2回ワークショップ「村史編纂からアーカイブスへ」

日時：平成30年3月27日

場所：大川村山村開発センター

内容：高知で歴史編纂や文化振興に関わってきた中村茂生先生（安田町教育委員会）をお招きし、史資料の収集・整理、地域のアーカイブス（文書館）構築の意義について考察し、今後の歴史継承にどのように活かしていけるかを検討した。

参加者：21人

3. 現地ワークショップ「中山間地域の移住者・協力隊の現在－中国・四国地方の事例から」

日時：平成31年3月21日

場所：自然大国 白滝の里

内容：地域おこし協力隊や移住者の方々が中山間地域で果たす役割に注目して、中国・四国地方の実践事例を比較検討し、意見交換を行うことで、今後の地域づくりにおける相乗効果を生み出すこと、過疎化が進む地域社会の「境界」を超えて地域おこしのモデルを考え直す機会とすることを目的とした。

【大川村 PR のためのチラシの作成】

1. 「離島をのぞき日本で一番人口が少ない村 高知県土佐郡大川村のむらづくり」



